

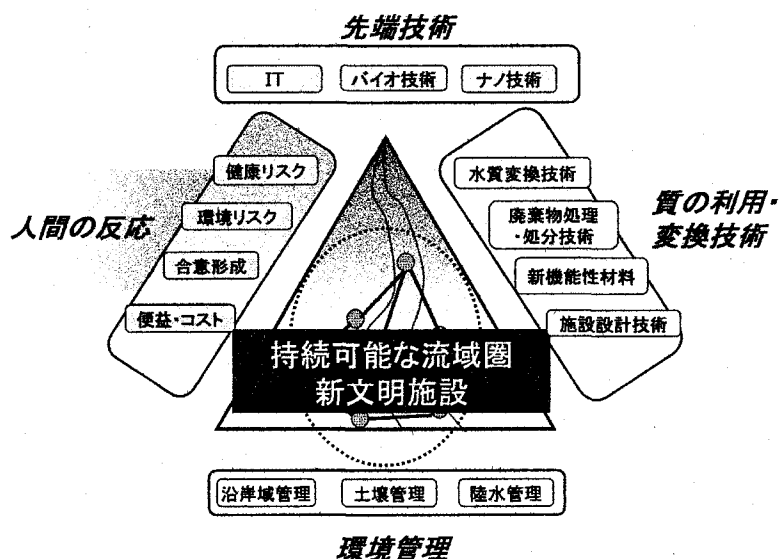
9. 流域圏の持続可能な水・廃棄物代謝システム

北海道大学大学院工学研究科

環境創生工学専攻 教授・渡辺義公

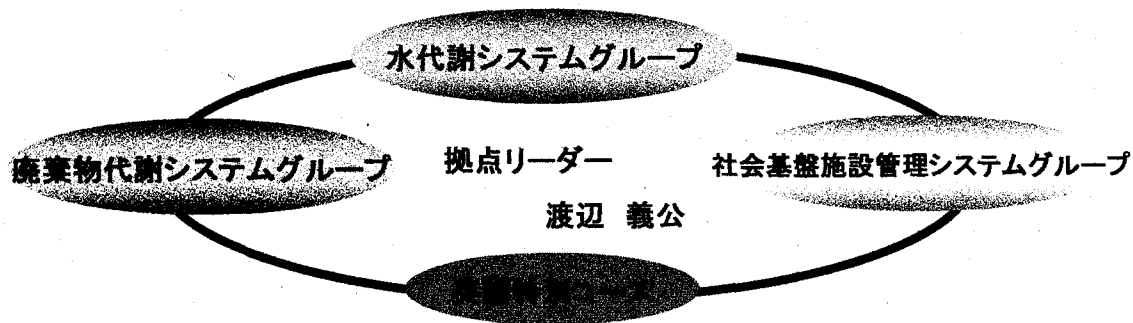
1. プロジェクトの概要：文部科学省の 21 世紀 COE プログラムは、世界最高水準の研究教育拠点を学問ごとに形成し、研究水準の向上と創造的な人材育成を図るため、研究教育拠点に重点的な支援を行うことによって、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進する目的で平成 14 年度から実施された。

「流域圏の持続可能な水・廃棄物代謝システム」は、平成 15 年度の採択拠点で、流域圏の「水」と「廃棄物」の輸送系と質変換系を自律・分散型とし、適切な時空間スケールで計画・建設・運用する社会基盤システムを、ホロニック・パス的発送（個の自律性（独自性）を尊重しながら全体の調和を図る）に立って構築するための研究者・技術者を養成するプログラムである。



本拠点の目指す環境社会工学

2. 研究組織：拠点リーダー渡辺義公を中心に、水代謝システムグループは自律的水利用・再循環システムに関わる要素技術を、廃棄物代謝システムグループは Urban Mine, Urban Forest と適正処分パークに関わる要素技術を、社会基盤施設管理システムグループは耐久・リサイクル性基盤材料、ライフサイクル性能照査システムを開発し、最終目標である「流域圏の持続可能な水・廃棄物代謝システム」を構築する。世界トップレベルの人材育成のために、本学社会工学系の英語特別英語コースプログラムとの連携強化も重要なポイントである。



本拠点の研究組織